

## ぶどう育種試験地における植付けぶどう品種一覽

山 川 祥 秀

日本の気候風土に適する醸造用ぶどう品種を選抜するため、また、新品種育成の交雑育種用の母本として利用するため、当ぶどう育種試験地には、ヨーロッパ系醸造用ぶどう品種を中心に、67品種、約1000本のぶどうが植付けられている。簡単な解説をつけ、その品種名を紹介する。

品種の解説は、Pierre Galetの「A Practical Ampelography」とA. Masselの「Applied Wine Chemistry and Technology」を参考とし、また、ハンガリー導入のものについては、北海道池田町ぶどうぶどう酒研究所河口将征氏からの私信を引用した。

なお、この原稿は、サントリー中央研究所山梨研究室々長 石井賢二博士にご検閲いただいたことを記し、ここに厚く感謝申し上げる。

## 1 ヨーロッパ大陸を原産地とする醸造用ぶどう品種

(*Vitis vinifera* L. proles occidentalis Negr.)

## 1. Aligote (アリゴテ)

フランス・ブルゴニュエ地域の古くからの白ワイン用品種、早熟種、耐寒性あり、栽培しやすい品種とされている。このワインは、黄色化するので、早目に飲んだ方がよいとされている。

## 2. Chardonnay (シャルドンネ)

= Morillons Blanc (モリヨン・ブラン), Pinot Chardonnay (ピノ・シャルドンネ)

フランス・ブルゴニュエ地域、およびシャンパニュ地方の代表的品種である。さわやかな酸を持ち、香気豊かなワインとなる。比較的早熟種で、耐寒性はあるが、耐病性にはやや劣る。少産。

## 3. Muller-Thurgau (ミュラートルゴー) = Rivaner (リヴァネル)

Riesling × Sylvaner (1891) の交雑白ワイン用品種、早熟種で、耐寒性はあるが、耐病性にはやや劣る。ドイツの三大品種 (Riesling, Sylvaner, Müller-Thurgau) のひとつである。フランス・アルザスでも栽培されている。

## 4. Pinot Blanc (ピノ・ブラン)

= Clevenner = Klevener (クレヴネル), Weiss-

## Burgunder (ヴァイス・ブルガンデル)

フランス原産種の白ワイン用品種で、ドイツ、オーストリアでも栽培されている。シャンパンの原料のひとつである。早熟種、割合に耐病性もあり、栽培は容易。Pinot Noir (赤), Pinot Gris (白) と兄弟品種。酒質の熟成は早い。Chardonnay より香が劣る。

## 5. Pinot Gris (ピノ・グリ)

= Pinot Beurot (ピノ・ブロー), Rulander (ルレンデル), Tokayer (トカイエ)

フランス原産種の白ワイン用品種で、早熟種で有効積算温度要求量が少なく、寒冷地向きとされ、アルザス地方、ルーマニア、ソ連でも広く栽培されている。豊かな香味をもつ良質のワインとなる。Pinot Blanc と兄弟で良く似ている。

## 6. Riesling (リースリング)

ドイツの白ワイン用三大品種 (Riesling, Sylvaner, Müller-Thurgau) のうちの代表的品種。オーストリア、ユーゴスラビア、ルーマニアなどの中央ヨーロッパの多くの地域や、フランスのアルザスでも King of Alsace の名前で栽培されており、白ワイン用としては最高の品種とされ、芳香があり、スッキリした酒質が特徴である。寒冷地が適地であるため、ワインの品質は、その年の気候条件に大きく左右される。貴腐ワインが造られる年もある。

## 7. Saint Emilion (サンテミリオン)

= Ugni Blanc (ユニ・ブラン), Trebbiano (トレビアーノ)

イタリアの原産種、南フランスで白ワイン用に使い、コニャックでは高級ブランデーの原料用として栽培され、75%を占めている。晩熟種で、糖度は比較的 low、酸度は高い。耐寒性にはやや劣る。豊産性である。

## 8. Sauvignon Blanc (ソービニオン・ブラン)

= Savagnin Blanc (サヴァナン・ブラン), Blanc Fume (ブラン・フェューメ)

フランスの白ワイン用品種で広く普及している。Semillon と混醸して、デザートワインが作られたり、ドライで芳香に富んだ特徴的なワインも作られている。比較的早熟種である。

## 9. Semillon (セミヨン)

=Chevier (シュヴィエル)

フランス・ボルドーの代表的白ワイン用品種である。貴腐ワイン・ソーテルン (Sauterne) の主原料としても有名である。ドライワインとしては新鮮味に欠け、アロマもとぼしいので、Sauvignon Blanc とブレンドして用いられている。豊産性で栽培しやすいが病害には弱い品種である。

## 10. Sylvaner=Silvaner (シルバーネル)

=Oesterreicher (エステルライヘル)

オーストリアの原産種であるが、ドイツをはじめ、中央ヨーロッパの広範囲に、白ワイン用として栽培されている。フランスのアルザスではGros Rhin (グロ・ラン) と呼ばれている。Rieslingより酸が少なく、豊産性で特徴的な緑黄色ワインができる。異名が多くある。

## 11. Traminer (トラミネ)

ハンガリーの原産種で、10世紀にフランスに持ってこられたとされている。ドイツ、オーストリアなどでも栽培されている。フランスのアルザスでは、特徴的な芳香を持つ黄色ワインが作られる。非常に晩熟種である。

## 12. Cabernet Franc (カベルネ・フラン)

フランス・ボルドー地域の最高級に位置する赤ワイン用品種、耐病性を持ち、Cabernet Sauvignon のワインにくらべ、芳香に富み、ソフトで繊細なワインとなる。ロゼ用にも使われている。C. Sauvignon の芽条変異品種で強健、別名安全カベルネとも称する。

## 13. Cabernet Sauvignon (カベルネ・ソービニオン)

=Petit Vidure (プチ・ヴィジュール) =Petit Cabernet (プチ・カベルネ)

フランス・ボルドー原産の最高級赤ワイン用品種、特にメドック (Medoc) のワインは有名である。世界のぶどう栽培地では、ほとんど栽培されている。晩熟種で比較的耐病性はあるが、うどんこ病には弱い。樹勢はすこぶるおう盛。

## 14. Grenache (グレナッシュ)

スペインの原産種であるが、南フランスの重要な赤ワイン用品種で、ロゼにも使われている。豊産性。

## 15. Merlot (メルロー)

=Merlan (メルラン), Plant Medoc (プラン・メドック)

フランス・ボルドー原産の赤ワイン用品種で、やや耐病性に劣るが、C. Sauvignon より豊産性で、酒質

はデリケート、スマイレ様の香りを持ち、ソフトでコクがある。熟成も早い。

## 16. Pinot Noir (ピノ・ノワール)

=Rot Clevenner=Rot Klevener (ロート・クレヴネル)

古くからのフランスの品種で、ブルゴニュエ原産の代表的な赤ワイン用である。軽口で飲みやすい。シャンパンニュー地方のシャンパンにも一部使用される。耐寒性にはとぼしいが、耐病性は割合強い。早熟種。

## II 黒海系のぶどう品種

(Vitis vinifera L. proles pontica Negr.)

## 17. Arumenia (アルメニア)

ソ連の原産種で、赤ワイン用品種である。

## 18. Sapepravi=Szaperavi=Saparvi (サペラゼ)

ソ連のグルジア原産種で、赤ワイン用品種、香味をつける調合用にも使われる。

## III 東洋系ぶどう品種、中国大陸および日本を原産地とする品種

(Vitis vinifera L. proles. Orientalis Negr.)

## 19. 甲州 (Koshu)

1186年、雨宮勘解由により、勝沼町 (旧祝村) で発見されたとされている。わが国独特の品種と考えられている。生食用、ワイン用、ブランデー用として貴重な品種であるが、近年栽培面積が、わずか2.8%にまで減少している。

## 20. 甲州三尺=三尺 (Koshu sanjaku)

わが国独特の品種と考えられている。鑑賞用として栽培されていたこともある。三尺とは房の長いことを表わすが、果房が短冊型のため、甲州短冊=甲州三尺と転化したともいわれる。

## 21. 龍眼 (Lungyen)

中国原産種。大房、大粒で紫色ぶどう、耐病性には優れている。酒質は概ね甲州に似ている。

## 22. 善光寺ぶどう

龍眼の系統で、古くから長野で栽培されていた。伝来については不詳である。

## VI 野生種ぶどうでヤマブドウといわれる種

(Vitis Coignetiae Pulliat.)

## 23. 御坂系ヤマブドウ

No.51: 山梨県御坂時に自生する種で、性質は、いわゆる一般的なヤマブドウで、隔年収穫性。

No52: 御坂峠自生種, 大房系であるが, 房数は少ない。

No53: 御坂峠自生種, 小房系であるが, 豊産性。

No54: 御坂峠自生種, 雄性株

#### 24. 広瀬系ヤマブドウ

No55: 山梨県三富村広瀬に自生する種で, 糖度高く大房系。

#### 25. 嵯峨塩系ヤマブドウ

No56: 山梨県大和村嵯峨塩に自生する種で, 糖度高く, 大房系。

#### 26. 富岡系ヤマブドウ

No57: 北海道乙部町緑町に自生する種で, 富岡農場選抜ヤマブドウ。糖度極めて高く20°を越す。年によっては24°を記録する。富岡農場では栽培種としている。

#### 27. 池田系ヤマブドウ

No58: 北海道池田町に自生する種。アムレンシス系 (*Vitis amurensis* (Maxim.) Rupr.) に属するのではないかとされている。池田町ぶどう・ぶどう酒研究所の選抜ヤマブドウ。池田町では交配用の母本としても使用している。

#### V 野生種ぶどうでチョウセンヤマブドウとか, マンシュウヤマブドウといわれている種

(*Vitis amurensis* (Maxim.) Rupr.)

#### 28. 果試アムレンシス

No59: 山梨県果樹試験場で育成した実生株で, 雌性株。

No60: 同じく果樹試験場で育成した実生株で, 雄性株。

#### 29. ドイツアムレンシス

No61: 北海道池田町ぶどう・ぶどう酒研究所導入のドイツアムレンシス。その分譲株で雌性株。

#### VI エビズルといわれている種

(*Vitis Thunbergii* Seib. et Zucc)

#### 30. エビズル

当ぶどう育種試験地に自生する種。エビズルは, 最近中国においては, 新しい耐寒性の栽培品種を育成するのに利用されている。

#### VII Seibel 系品種

フランス人, Albert Seibel (1844~1936) は, 主にフィロキセラに耐性ある品種を作り出すため, 台木品種に醸造用ぶどうを交配した, いわゆる, フレンチ

ハイブリット (French Hybrid) といわれる品種で, 日本では直産品種といわれているもので, 数千品種を作り出した。当試験地には以下の5品種が植付けられている。

31. Seibel 4986 赤ワイン用

32. Seibel 8745 赤ワイン用

33. Seibel 9110 白ワイン用

34. Seibel 10868 赤ワイン用

35. Seibel 13053 赤ワイン用

#### VIII 日本で作出された品種

36. Muscat Bailey A (マスカット・ベリーA)

(Bailey × Muscat Hamburg) 川上善兵衛育成 (1927)。大房, 大粒の黒色ぶどう, 強健で豊産性, 裂果性なく栽培が特に容易, 生食・醸造兼用種。

37. Muscat Bailey B (マスカット・ベリーB)

(Bailey × Muscat Hamburg) 川上善兵衛育成。ベリーAにくらべて果粒が柔かい, 赤ワイン用。

38. Bailey Alicante A (ベリーアlicantA)

(Bailey × Alicante Bouschet) 川上善兵衛育成。赤肉種で, 酸度高い。ワインの色づけに用いられる。

39. Riesling Lion (リースリング・リオン)

(甲州三尺 × Riesling), サントリー山梨研究所作出。1962年交雑, 1975年農林省登録品種276号。

Rieslingの低収量, 不安定, 裂果性の欠点を改良した高級白ワイン用品種。樹勢は両親の中間型, 登熟よく栽培しやすい。果房はRieslingの約倍大きく, 耐病性あり。酒質は厚味あり, 熟成が早い。

40. Suntory Blanc (サントリー・ブラン)

(甲州三尺 × Cabernet Sauvignon), サントリー山梨研究所作出。1961年交雑, 1975年農林省登録品種275号。果皮色が淡黄紅色で果肉は柔軟, 多汁, C. Sauvignonより1ヶ月早く熟し, 高糖であるがやや低酸。酒質は芳香あり, C. Sauvignon の特徴が伝わっている。

41. Cabernet Suntory (カベルネ・サントリー)

(Black Queen × Cabernet Sauvignon), サントリー山梨研究所作出。1957年交雑, 1974年農林省登録品種257号。樹勢はB. Queen に似るが, 果房は両親の中間型, 小粒, 多汁, 芳香はC. Sauvignon に似て, 酒質は重厚。これまでにわが国にはなかった高級赤ワイン用品種。

42. 笛吹

(Mills × Angelo Pirovano), 山梨県果樹試験場交雑, 育成 (1955), 農林1号。大房, 大粒の鮮紅色ぶ

どう、耐裂果性 生食用の他、白ワイン用原料ともなる兼用種。

IX ハンガリー国立ぶどう・ぶどう酒研究所より、日本テレビを通じて導入した品種

43. Jubileum 75 (ユビリウム75)

交配 (1951) 白ワイン用品種で、耐病性に優れ、耐霜性はRieslingよりも優る。ハンガリーでは9月下旬が収穫期となる。

44. Favorit (ファボリット)

交配 (1950) 白色生食用品種で、果粒 $24 \times 21\text{mm}$ となる。ハンガリーでは8月上旬に熟する早熟種で、豊産性、耐病性もある。

45. Bibor Kadarka (ビボルカダルカ)

交配 (1948) 赤ワイン用品種で、豊産性、耐霜性もある。

46. Zala Gyongye (=Egri Csillagok No24) (ザラ・ジンジエ)

交配 (1957) 白ワイン用品種で、耐寒性、耐病性に優れている。豊産性で、ワインは調和のとれた、わずかにマスカット香を感じるすばらしい品質のものとされている。ハンガリー、ドイツ、カナダでは、新品種として、最も有望視されている品種。

47. Pannonia Kincse (パンノニア・キンチェ)

交配 (1942) 白色生食用品種、果粒 $24 \times 21\text{mm}$ となる。9月上旬に熟し、豊産性で、耐霜性は劣る。

48. Ezer Furtu (エゼル・フェルトウ)

交配 (1950) 白ワイン用品種、豊産性で耐病性、耐寒性もある。

49. Csaba 162 (チャバ 162)

交配 (1951) 赤ワイン用品種、豊産性、耐病性がある。ワインはアロマ強く、色、タンニン含量に富んでボディもある。

50. Zweigelt rebe (ツワイゲルト・レーベ)

交配、赤ワイン用品種、耐寒性はヨーロッパ系品種の中で最も優れている。耐病性にも優れ、豊産性。

51. Egri Csillagok No34

中熟種、マスカット香がある。

52. Egri Csillagok No28

中熟種、豊産性。

53. Egri Csillagok No40

中熟種、糖含量が高くなる。

54. Egri Csillagok No.7

早熟種、アロマの強い品種。

55. Egri Csillagok No26

56. Kanzler (カンツェラー)

交配 (1927) 白ワイン用品種、早熟種、ワインはブーケも良く、しばしばAuslese, Spatleseができる。

57. Morio-Muskat (モリオ・マスカット)

交配白ワイン用品種、早熟種、豊産性で、ワインは重厚で豊満、強いマスカット香がある。

X チョウセンヤマブドウと交配したソ連の品種

58. Bujtur (ブイトゥル)

59. Russzkij Konkord (ルスキー・コンコード)

XI 台木品種

北海道池田町ぶどう・ぶどう酒研究所から分譲を受けたウイルス・フリー台木。

60. Teleki 5C

61. SO 4 (Selection Oppenheim No.4)

XII ウイルス・フリー株

農林水産省果樹試験場が導入したウイルス・フリーぶどう品種の分譲を受け、さし木による苗木を育成している。

62. Cabernet Sauvignon (F.V. K13 V6)

63. Merlot (F.V. G9 V9)

64. Pinot Noir (F.V. G8 V3)

65. Cabernet Franc (F.V. C7 V15)

66. Pinto Blanc (F.V. F10 V14)

67. Semillon (F.V. F2 V1)